

2016年7月6日

お客様各位

日興アセットマネジメント株式会社

「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」 2015年6月～2016年5月の運用状況と今後の見通しについて

平素は弊社投資信託に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは相対的に利回りの高い、新興国通貨建ての世界銀行債券に投資を行なうファンドです。高い金利収入と為替の値上がり益の獲得をめざしつつ、信用力の高い世界銀行債券に投資を行なうことで、信用リスクの低減をめざします。また、新興国通貨は為替変動リスクが先進国通貨と比較して大きくなる傾向にあるため、幅広く分散投資を行ない、為替変動リスクの低減をめざします。

今回、日興アセットマネジメントでは、2015年6月から2016年5月までの当ファンドの運用状況と今後の見通しについてのレポートを作成いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

なお、2016年5月末時点では、以下の国の通貨建ての世界銀行債券に投資を行なっています。

投資通貨の国



※上記の投資通貨の国は2016年5月末時点のものであり、将来変更される場合があります。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の方針あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

運用概況

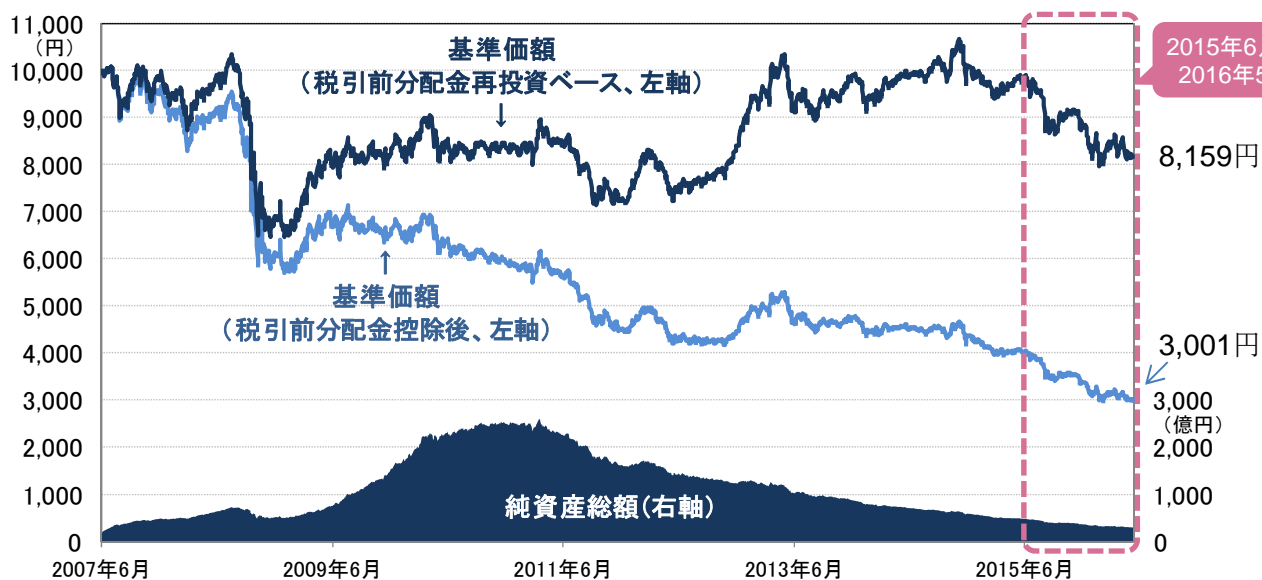
World
Supporter

2015年6月から2016年5月の1年間における金融市場は、新興国にとって厳しい市場環境となりました。商品価格の下落は資源国にマイナスの影響を与え、低調な需要と商品市況の悪化によって世界の貿易も頭打ちの状態が続いています。そのため、ロシアやブラジルといった、新興国の中でも比較的大きな経済圏において予想を上回る景気後退がみられ、新興国全体の経済成長率を押し下げました。

同期間において、市場の最大の関心事は米国の金融政策動向であり、通貨の上昇期待を背景に米ドル建ての資産へと資金をシフトする動きが強まりました。さらに、米ドルが大きく上昇すると、米ドルに連動する通貨も上昇圧力を受け、中国では人民元の切り下げが行なわれました。こうしたことから昨年は、新興国市場から資金が流出しやすい状況となり、多くの通貨が大幅に下落しました。

こうしたなか、当ファンドの基準価額の騰落率は、▲17.31%(税引前分配金再投資ベース)と大きく下落しました。

基準価額と純資産総額の推移 (2007年6月21日(設定日)～2016年5月31日)



	2015年5月末	2016年5月末
基準価額	4,071円	3,001円

	2015年5月末～ 2016年5月末
騰落率	▲17.31%

※ 基準価額は税引前分配金控除後の値です。

※ 騰落率は税引前分配金再投資ベースの値をもとに算出しています。

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況

World
Supporter

主要投資対象ファンド*について

*「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」

【ポートフォリオ特性値】

(2016年5月末現在)

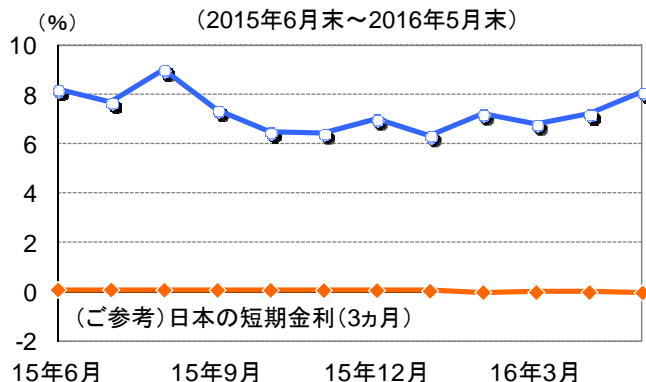
ポートフォリオの最終利回り	8.12%
ポートフォリオの直接利回り	4.96%
ポートフォリオの平均残存年数	1.31年

- ※ 利回りは、個別債券および短期金融資産について加重平均したものです。最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
- ※ 利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。

- ※ 上記は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドからの情報をもとに作成しています。

【最終利回り推移】

(2015年6月末～2016年5月末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

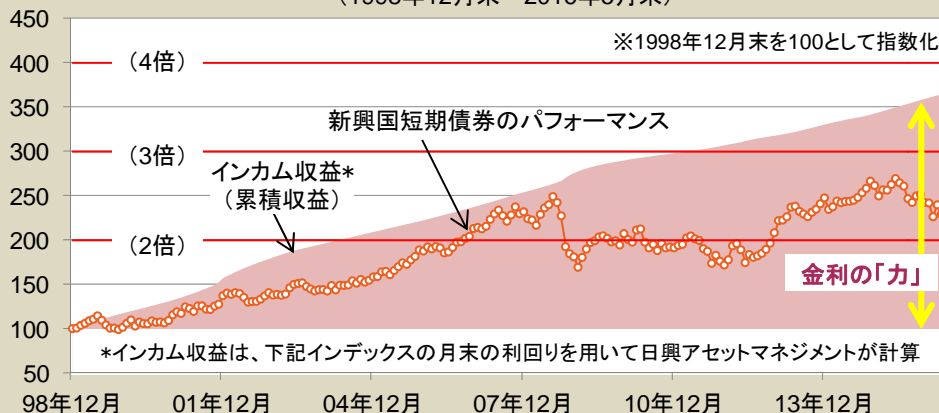
ご参考

投資成果を下支えするインカムの力

- 海外債券投資において、パフォーマンスをけん引する要因の一つに債券のインカム収益が挙げられます。当ファンドが投資対象とする新興国通貨建債券は、**相対的に金利水準が高く、中長期的なインカム収益の積み上げ**が期待できます。
- 当ファンドは高い信用力を持つ世界銀行債券を投資対象とするため、**信用リスクを抑えながら**相対的に高いインカム収益を獲得することが期待できます。また、**金利変動リスクを抑制**するために、短期債券を中心に投資を行ないます。

(ご参考)【新興国短期債券のパフォーマンス(円ベース)】

(1998年12月末～2016年5月末)



※新興国短期債券: JPモルガン・エマージング・ローカル・マーケット・インデックス・プラス(米ドルベース)を円換算

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

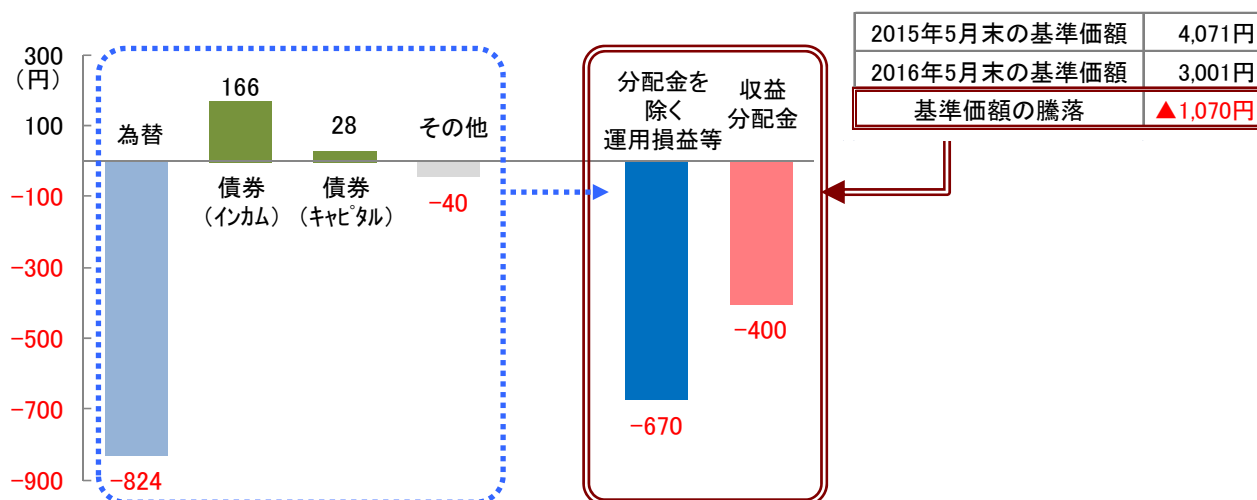
当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額騰落の要因分解

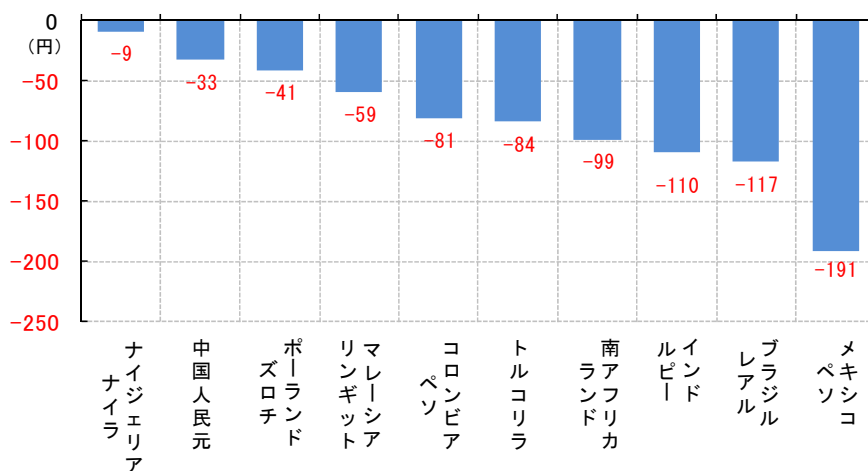
World
Supporter

- 2015年6月から2016年5月の期間においては、相対的に高い新興国債券のインカム収益が基準価額を下支えする一方で、為替収益が大幅なマイナスとなり、運用損益も大きくマイナスとなりました。

基準価額騰落の要因分解 (2015年5月末～2016年5月末)



為替要因(通貨別) (2015年5月末～2016年5月末)



※ 上記要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご参照ください。また、四捨五入の関係で合計が一致しないことがあります。

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

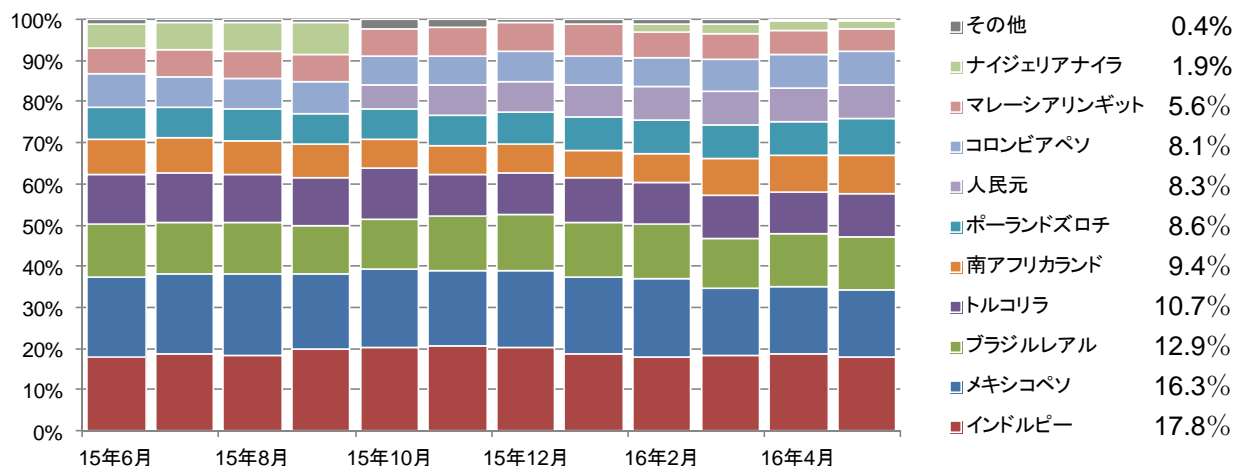
投資通貨について

World
Supporter

- 当ファンドでは、2015年6月から2016年5月までの1年間を通じ、インドおよびメキシコの組入比率を上位に保ちました。一方で、政治的な混乱が続いたブラジルは、不透明感が高まる局面で比率を引き下げるなど、適宜調整を行なっています。昨年11月にかけて大きく上昇したトルコについては、同月に組入比率を引き下げて利益を確定させました。
- 通貨が堅調に推移したナイジェリアは、2015年10月に組入対象から外し、利益確定を行ないました。しかしその後、債券価格が通貨の切り下げを十分に織り込んだ水準にまで下落したため、この先通貨が下落しても高い利回りによって魅力的なリターンが得られると考え、今年2月には、再び低位の比率ながら組み入れています。
- 2015年10月以降は、中国を新たな組入対象としました。人民元がIMF(国際通貨基金)のSDR(特別引出権)の準備通貨の一つとして間もなく採用される可能性が高まったことなどから、中国当局は今後しばらく米ドルとの連動性を保ちつつ、強い人民元を維持すると考えました。
- その他、足元の数カ月は南アフリカなど、相対的にリスクは高いものの、市場心理の回復に伴って大きな恩恵を受けると考えられる国の組入比率を引き上げました。

外国通貨別構成比の推移 (2015年6月末～2016年5月末)

(2016年5月末現在)



※ 上記は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である、日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからの情報をもとに作成しています。

※ 上記は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託の通貨別構成比率であり、外国投資信託の純資産総額に対する比率です。

※ その他や端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

主な投資通貨国の状況について

World
Supporter

インド

今後も高い経済成長が持続する見込み

インドは7%を超える高い経済成長率を今後も継続すると期待されており、投資対象として非常に有望な国であると考えます。こうした経済成長は大規模なインフラ投資や旺盛な内需によって支えられています。政府はまた、様々な改革も進めており、規制を減らすことでビジネスの効率性を高めようとしています。

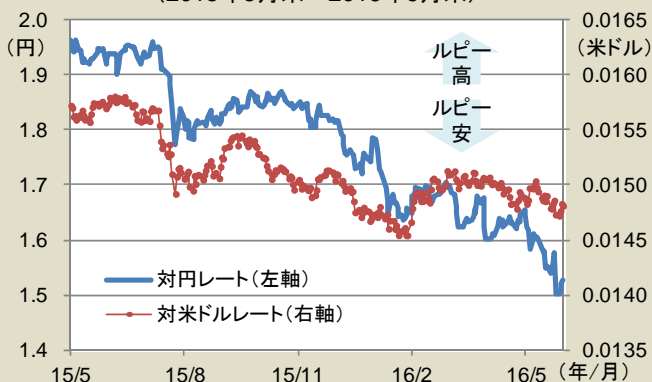
経常赤字の減少などから信用力は改善傾向

2013年以降、政府が導入した様々な政策が奏功し、インドの経常赤字は大きく減少しました。また、海外投資家によるインフラ投資の増加により、海外直接投資の流入額が増加傾向にあります。中央銀行は旺盛なインド資産への需要に対応して外貨準備を積み増しており、こうしたことは同国の信用力の改善につながっています。

中央銀行総裁の退任発表に対し、市場は冷静な反応

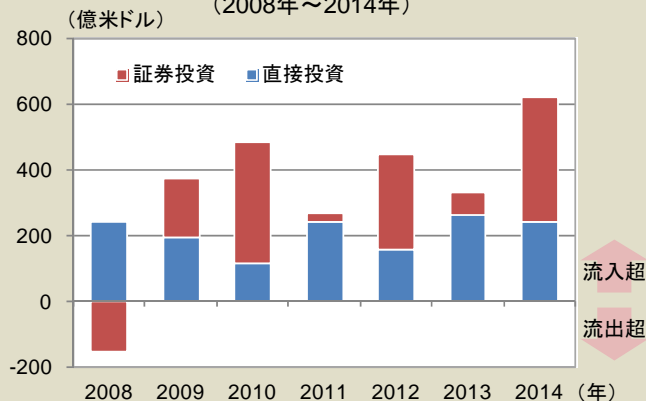
市場の信任が厚いラジャン中央銀行総裁が、今年9月の任期満了での退任を表明しましたが、その後市場では大きな混乱は見られませんでした。次期総裁の有力候補とされる副総裁のパテル氏は、ラジャン氏の政策を引き継ぐものとみられ、これまでと同様に市場との対話を重視すると考えられます。また他の候補者である、財務相首席経済顧問を務めるスブラマニアン氏についても市場の評価は高く、こうした人物が後任に就けば市場ではポジティブに受け止められると考えます。

【インドルピーの推移】
(2015年5月末～2016年6月末)



IMFなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

【直接投資および証券投資の推移(収支)】
(2008年～2014年)



※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

メキシコ

メキシコ経済は改善傾向にあるものの、米国の鈍化懸念が通貨の重石に

メキシコの雇用情勢は製造業を中心に大きく改善し、足元の失業率は金融危機前の水準を回復しています。また賃金の増加が小売売上高の伸びにつながるなど、同国の経済は緩やかに改善傾向にあります。しかし市場では、米国経済の鈍化懸念の影響でメキシコに対する慎重な見方が強まっており、2016年以降、メキシコペソは軟調に推移しました。

資産の信認を高めるため、当局は積極的な対策を実施

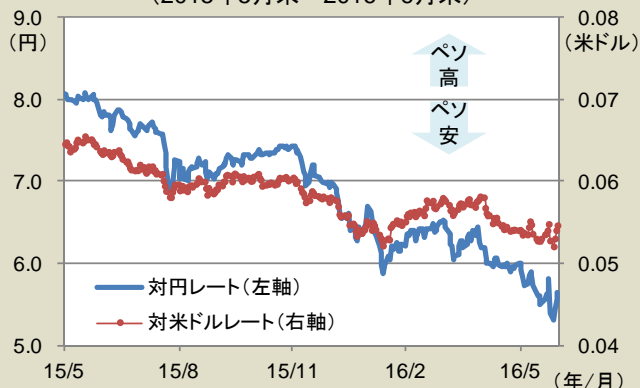
そうしたなか、当局は同国資産の信認を高めるため、歳出削減策など積極的な対策を講じる動きを見せ始めました。また中央銀行は、昨年末から2回、計0.75%の利上げを行ないましたが、6月末にはさらに政策金利を0.5%引き上げ、4.25%とすることを決定しました。

堅調な直接投資や海外からの送金がメキシコペソの下支えに

メキシコの製造業に対する海外からの直接投資は高水準を維持しており、流入額は昨年引き続き、2016年も増加する見通しです。特に自動車産業への新規投資が活発であり、複数のメーカーが同国への工場建設を予定しています。また出稼ぎ労働者による海外からの送金額も引き続き堅調に推移しており、こうしたことはメキシコペソの下支えになるとみられます。

【メキシコペソの推移】

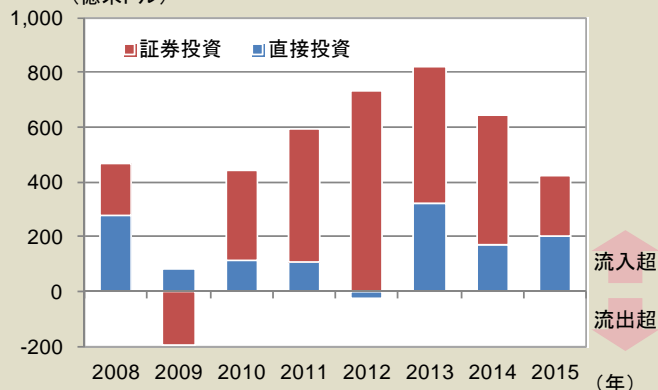
(2015年5月末～2016年6月末)



IMFなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

【直接投資および証券投資の推移(収支)】

(億米ドル) (2008年～2015年)



流入超
流出超

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



政治的な混乱などから近年は厳しい状況が続く

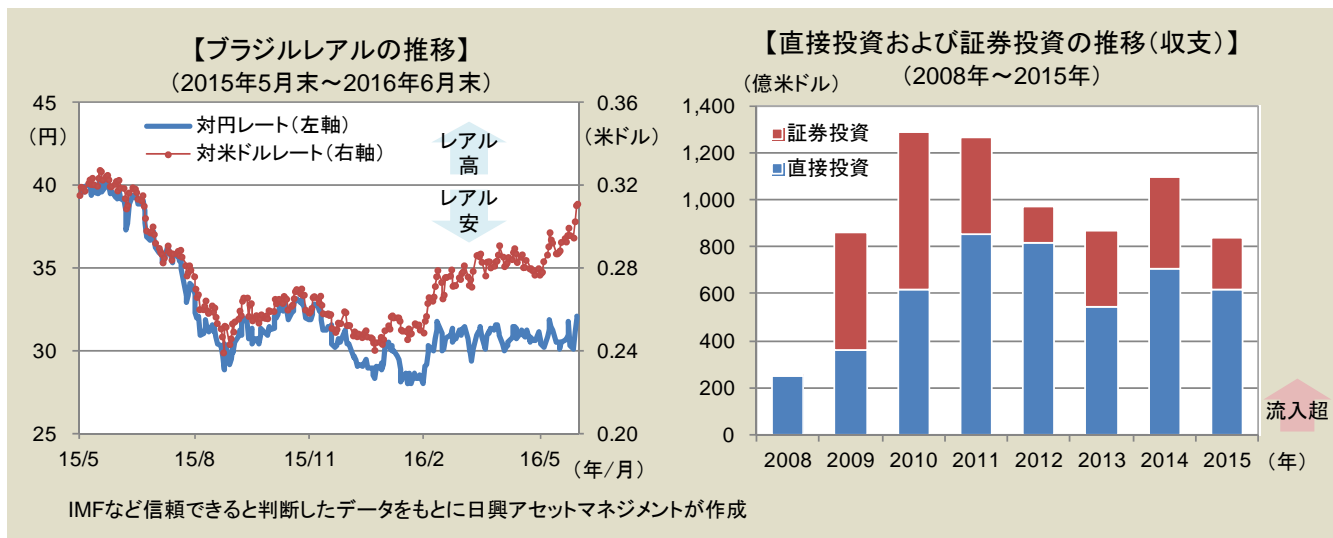
近年ブラジル経済は、政治的な混乱などから厳しい状況が続きました。2015年末には財政健全化を進めるレヴィ財務大臣が辞任したこともあり、同国は全ての大手の格付会社から投資不適格級に格下げされました。ルセフ大統領に対する弾劾裁判の実施が可決され、現在はテメル副大統領が暫定的に大統領職を代行しています。政府は2016年の修正財政目標を公表しましたが、これは財政健全化に対し、政府がより現実的になったことの表れでもあります。

経常赤字は大幅に縮小、今後も経常収支の改善が期待される

経常赤字は2014年来大きく縮小しており、また、今年4月以降は、2009年以来初めて単月で経常黒字となっています。加えて海外直接投資の流入額も堅調に推移しており、今後も経常収支の改善が期待されます。

最悪期を脱しつつあり、ブラジルレアルは持ち直しの兆し

2016年1-3月期のGDP成長率は、マイナス幅が若干改善しており、同国経済は最悪期を脱しつつあるとみられます。足元ではこうした要因からブラジルレアルは持ち直しの動きを見せており、今年中にさらに上昇する可能性もあるとみています。今後のリスクとして、ルセフ氏の復職などが挙げられますが、同国に対する市場の見通しは急激に改善しつつあります。



※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



経常収支の改善などが通貨の安定に寄与

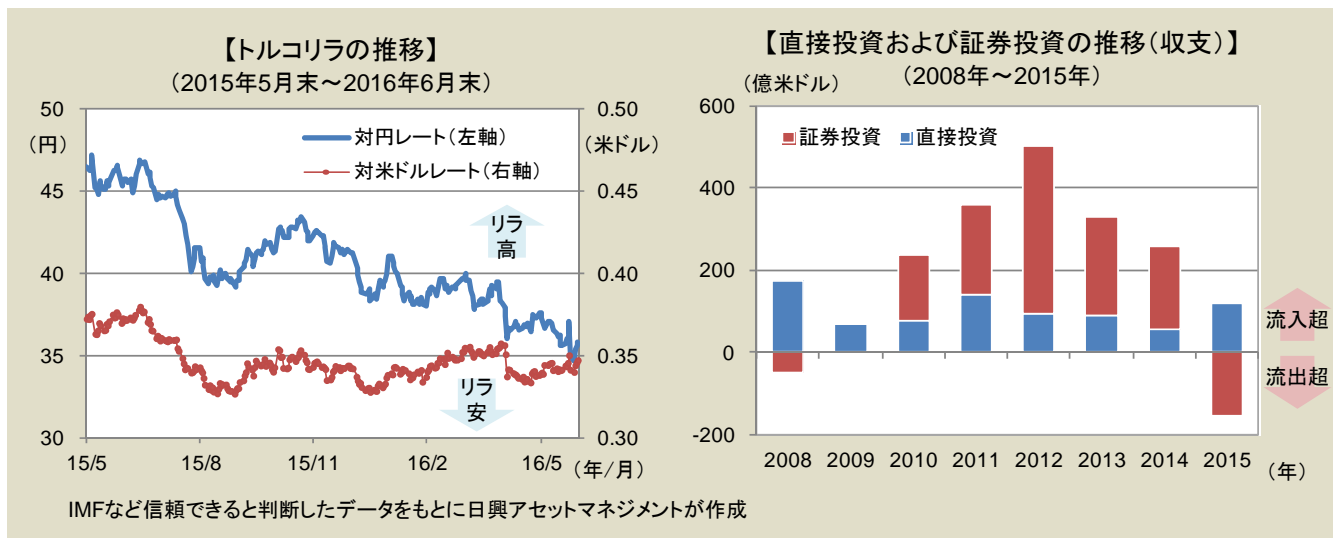
経常収支が引き続き改善していることから、足元ではトルコリラの動きに落ち着きがみられます。さらに、リラ安時に海外資産を本国に送還する国内投資家の行動が、一段の通貨安を抑える要因となっています。経常赤字の縮小やインフレ率の鈍化などから、今年3月以降、中央銀行は主要金利のうち翌日物貸出金利を相次いで引き下げ、10.5%から9.5%としました。

通貨の脆弱性改善から、政治的な変化に対しても市場は冷静に反応

実権型大統領制の導入をめざすエルドアン大統領との意見の相違から、今年5月にダウトオール首相が辞任しました。市場はこうした政治的な変化には敏感に反応しがちですが、今回は大きな混乱はみられませんでした。背景として、経常赤字の縮小による通貨の脆弱性改善が注目されたものと考えられます。

経済指標は堅調に推移、高い金利水準を背景に投資魅力高まる

2016年1-3月期のGDP成長率が前年同期比4.8%と堅調な伸びとなり、景気先行指数も改善しています。これらは難民問題を受けた旅行者数の減少によるマイナス効果を織り込んだ市場の見方に反し、驚くほど堅調な結果でした。こうした状況や高い金利水準を背景に、トルコはマイナス金利政策を続ける欧州から流出した資金の主な避難先となっており、足元でトルコリラの投資魅力が高まっています。



※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



経済指標に回復の兆し

南アフリカの失業率は極めて高い状態が続いており、経済成長は弱く、通貨の切り下げによって輸出競争力が高まったにもかかわらず経常赤字が続いています。しかし今年4月には貿易収支が黒字となったほか、累計貿易赤字が大きく減少するなど、徐々に回復の兆しが見られます。また製造業PMIIにおける新規受注指数も、受注の大きな伸びを示して大幅に改善しました。

年内にさらなる利上げの可能性

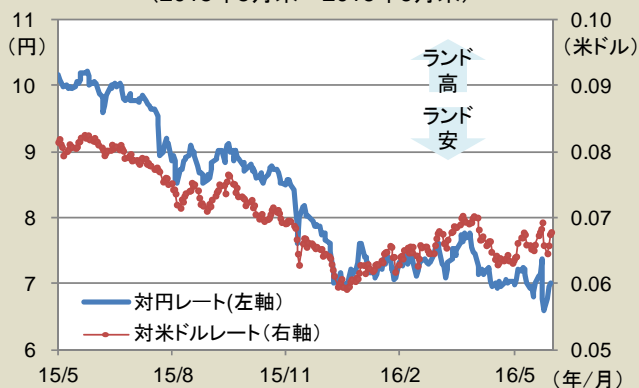
政府は、複数の重要分野における規制緩和や、成長促進のための中小企業向けファンドの創設など、徐々に改革の導入を進めています。また、旅行業と農業を育成分野とし、支援策を講じ始めました。中央銀行は今年1月と3月に計0.75%の利上げを行ない、政策金利を7.0%としましたが、さらに年内に少なくとも2回、7.5%まで引き上げる可能性があります。

下落の大きかったランドは今後の反発が期待される

南アフリカランドは大きく下落しましたが、足元の水準は過小評価されたものであると考えます。同国には様々な問題が残されてはいるものの、現在の過小評価された為替水準や高い利回り、また流動性の高さなどから、南アフリカランドは新興国通貨の中で今後最も反発が期待できる通貨の一つであると考えます。

【南アフリカランドの推移】

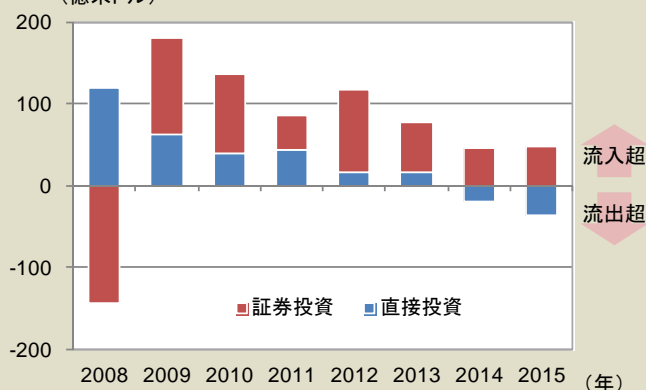
(2015年5月末～2016年6月末)



IMFなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

【直接投資および証券投資の推移(収支)】

(億米ドル) (2008年～2015年)



※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通しについて

World
Supporter

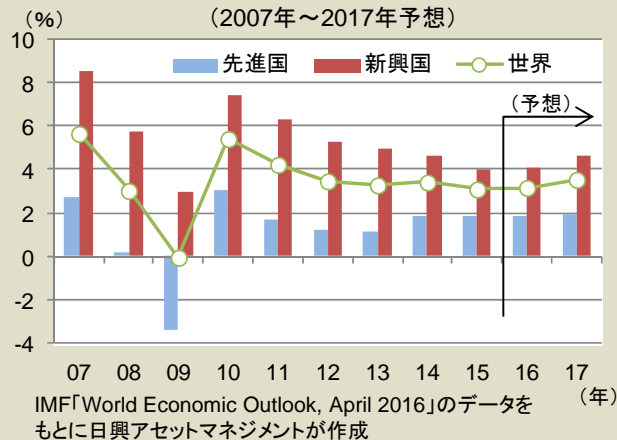
新興国市場は回復過程に

新興国経済の長期的な成長見通しに変化はなく、これまで以上に世界経済の大きな部分を占め続けると考えます。足元では、中国経済の安定化が見込まれることや、米国利上げペースの減速予想、新興国通貨の脆弱性改善に加え、商品市況の持ち直しなどが新興国経済を後押ししていると言え、新興国市場は回復過程に入ったと考えています。

ただし、昨年来、投資家のリスク回避姿勢の高まりとともに新興国通貨が弱含んだことを考慮すると、回復は緩やかなものになるとみられます。

【実質GDP成長率(前年比)の推移】

(2007年～2017年予想)



足元で資源国通貨や市場感応度の高い通貨にも注目

一般に、商品市況の悪化は中国の成長鈍化と関連付けられますが、実際には中国の需要は拡大傾向であり、過剰投資による世界的な供給過剰こそが原因であると言えます。こうした供給過剰は近いうちに緩和されるとみており、中国の経済成長がこれまでのように急激なものでなかったとしても、商品価格の回復が期待されます。当ファンドでは、コロンビア、マレーシア、メキシコ、ナイジェリアなどの原油産出国の通貨に注目しています。

投資通貨の構成比率を考えるにあたり、最も重要視するのは各国のファンダメンタルズです。また同時に、各通貨の相対的な値動きにも注目しています。新興国を取り巻く環境が改善傾向にあるとみられる今、単にファンダメンタルズが良好というだけでなく、市場心理が回復する局面において、より大きな反発が期待できると考えるブラジルや南アフリカといった国の通貨にも注目しています。

新興国通貨の投資魅力が高まる

軟調な市況のなか、ほとんどの新興国通貨は売られすぎであり、過小評価されていると考えます。現在、多くの新興国では経常収支の改善や外貨準備の積み上げが進んでおり、通貨の脆弱性は改善傾向にあります。また、主要先進国が依然として低金利政策を継続する一方、新興国の金利水準は相対的に高く、先進国との金利差が拡大していることから、新興国通貨の投資魅力は高まっているものと考えられます。新興国の緩やかな回復局面では、相対的に高い金利収入だけでも魅力的なリターンを上げることは可能であると考えます。

なお、インド、中国、ポーランドなどは、近年の堅調な内需を主な牽引役として、持続的な経済成長が期待されます。当ファンドでは、こうした国の通貨にも投資を行なうことで、相対的に高い利回り、通貨の値上がり益の獲得をめざします。

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

当資料は、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、運用方針は変更される場合があります。また、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

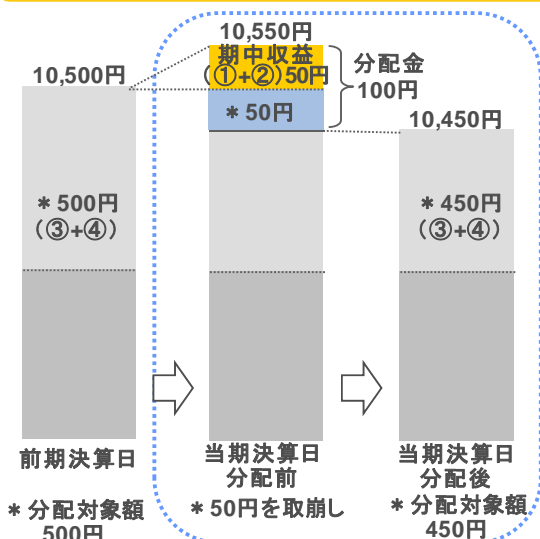
投資信託で分配金が支払われるイメージ



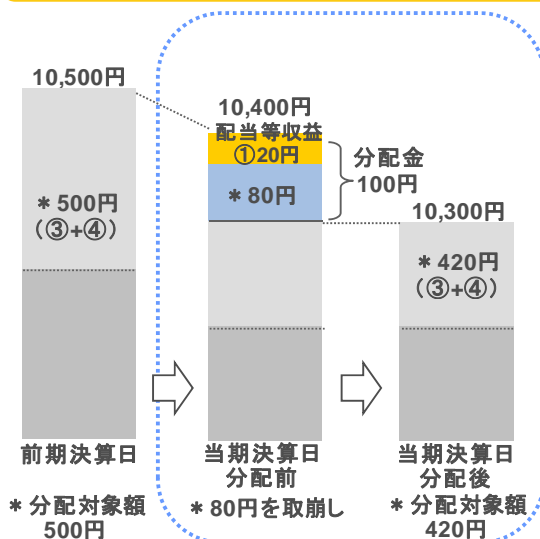
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合

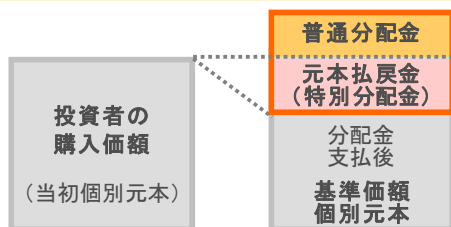


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

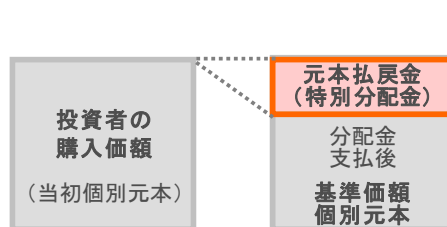
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

■お申込みに際しての留意事項

「リスク情報」

- 投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。
なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- 当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【為替変動リスク】【カントリー・リスク】【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

「その他の留意事項」

- 当資料は、投資者の皆様は「世界銀行債券ファンド(毎月分配型)／愛称:ワールドサポーター」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様には帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■お申込メモ

- 商品分類 : 追加型投信／海外／債券
- ご購入単位 : 購入単位につきましては、販売会社ないしは委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 : 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 : 購入申込日が英国証券取引所の休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドンの銀行休業日、ニューヨークの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 : 無期限(2007年6月21日設定)
- 決算日 : 毎月12日(休業日の場合は翌営業日)
- ご換金不可日 : 換金請求日が英国証券取引所の休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドンの銀行休業日、ニューヨークの銀行休業日のいずれかに当たる場合は、換金請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い: 原則として、換金請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

■手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 : 購入時手数料率は、3.24%(税抜3.0%)を上限として販売会社が定める率とします。
※ 分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、
購入時手数料はかかりません。

換金手数料 : ありません。

信託財産留保額 : ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬 : 純資産総額に対して年率1.295%(税抜1.223%)程度を乗じて得た額が実質的な
信託報酬となります。

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率[年率0.972%(税抜0.90%)]、投資対象となる
ケイマン籍円建外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の組入れに
係る信託報酬率[年率0.323%程度]となります。

このうち、当該外国投資信託の信託報酬率は、純資産総額や為替相場によって変動します。

それに伴ない、実質的な信託報酬率も変動します。

詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他費用 : 目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、
ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を
上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、
その都度、信託財産から支払われます。

※ 組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に
料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なり
ますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

受託会社 : 野村信託銀行株式会社

販売会社 : 販売会社については、下記にお問い合わせください。

日興アセットマネジメント株式会社

【ホームページ】 <http://www.nikkoam.com/>

【コールセンター】 0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社青森銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○			
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○			
株式会社阿波銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第1号	○			
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第3号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
SMB Cフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第40号	○			○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○			
オーストラリア・アンド・ ニュージーランド・バンキング・ グループ・リミテッド(銀行)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第622号	○			
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
クレディ・スイス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第66号	○	○	○	○
株式会社佐賀共栄銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第10号	○			
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
株式会社四国銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第3号	○			
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○	
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○		○	
株式会社第四銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○	
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○			
株式会社東京都民銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第37号	○		○	
株式会社徳島銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第10号	○			
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第11号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○	○		
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第18号	○			
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第3号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○			○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
株式会社南日本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第8号	○			
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第5号	○			
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第10号	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第36号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

(50音順、当資料作成日現在)